

# でも愛が何なのか

ほった  
すなお  
堀田 素生

愛が欲しい

でも愛が何なのか

私には分からないから

差し出されたものは

全体的外れ

「ずっとずっと一緒に居てね」

子供の人形が舌っ足らずに歌う

小さなカップから

カモミールの湯気が上る部屋で

捨てないで

置いて行かないで

誰もそばに居たいと思わない

そういう私が

一緒に居ていいとは思えない

燃えないゴミの日

今生のお別れ

でも愛が何なのか

私にはわからない

たった一人でしゃんと立つ私を見て

わざとらしく感嘆する

今ここで倒れても

お前はきっと助けない

「なんで助けなきやいけないの？」

そう言つてさつきまでの賞賛を

簡単に撤回する

愛を請わないことは

美しさであるとしても

言わんばかりに

泣いた子が寝入る瞬間のように

静かに心臓が止まる

でも愛が何なのか

私にはわからない

肉体を持ったお前たちは

人のことが死ぬまで分からない

自分に見えてないものは

無いものと一緒

相手には見えていようが

堂々と無いものとして

痛みを知ろうとしない

自分の正義で以て相手を非難する

「なんで愛さなきやいけないんだ」と

土足で踏み入り唾をかけ

全てを奪つて去つて行く

でも愛が何なのか

私にはわからない

神様の愛が

凍り付いた皮膚と内臓を暖めて

とろとろ蕩かすように

真っ白な永遠と

不変の真理が

身体中をどくどくと巡る

そういう夢を見ている

愛はこういうものだ

白湯を喉に流し込むように

理解する

信じさせたり

裏切らせたりしない

信じたり

裏切ったりもしない

愛が何なのか

わからないから

夢から覚めると

金木犀の匂い

日が落ちた公園

ポケットの中の砂糖を舐める

人間に何も求めない

私はもう

何も求めない